

志望大学別出題分析と学習アドバイス

(2024年1月作成)

日本大学

年度や学部によって異なるが、国語は大問3～4題で、うち現代文が2題、残りが古文。試験時間は60分。

現代文では、2000～2500字強の評論と文学作品（随筆文や小説）が1題ずつ出題されることが多い。設問はすべてマーク式で、基本的な読解力を問うもの、傍線部や指示語の内容説明、内容合致、空欄補充などが頻出。また、漢字や語句の意味などの国語常識も出題される。むずかしい文学史も頻出！

東洋大学

日程や学部によらず、現代文1題、古文1題の計2題という問題構成。試験時間は60分。現代文では、3000～4000字程度の評論が出題されることが多い。設問数は10題程度で、その半数が漢字問題、語句の意味を問う問題、接続詞の空欄問題など。ほかにも、傍線部の内容説明・理由説明、空欄補充、内容合致、脱落文補充などが出題される。問題文は重厚でむずかしい！

駒澤大学

ほとんどの学部で、漢字問題1題（5～6問）、現代文1題、古文1題という問題構成。試験時間は60分。

現代文では、5000字を越える長めの評論が出題されることがあるので、時間配分に注意が必要。設問では、空欄補充が多いため、前後の文脈をしっかりと読み取り把握する必要がある。現代文・古文ともに文学史の問題が出題されるので注意！

専修大学

現代文1題、古文1題が出題される。試験時間は60分。

現代文では、2500～4000字程度の標準的な長さの評論が出題されることが多い。設問数は10題ほどで、前半は漢字や語句の意味などを問う知識問題、後半では傍線部の内容説明・理由説明、空欄補充などが出題される。知識問題での取りこぼしに注意！

京都産業大学

文系の学部の多くは、現代文2題、古文1題という問題構成。試験時間は80分で、マーク式の出題。

現代文では、2500～4000字程度の評論と文学作品（随筆文や小説）が1題ずつ出題されることが多く、入試頻出の著名な作者の文章がよく見られる。設問数は大問1題あたり8～10問。漢字・接続語・語句の意味などの基礎知識が問われる一方、問題文が文学作品の場合は傍線部の心情説明問題も出題される！

近畿大学

文系の学部の多くは、現代文2題、古文1題という問題構成。試験時間は60分。

国語はすべてマーク式で出題され、現代文は2000～3000字強の評論や随筆が出題される。設問数は8～10題程度で、傍線部の内容説明問題が多い。出題の文章は平易だが、読解力が試される！

甲南大学

文系の学部の多くは、現代文1題、古文1題の計2題という問題構成。試験時間は70分で、マーク式と記述式の併用で出題される。

現代文では、4000～4500字程度の評論が出題されることが多い。設問では、漢字、文法、語句の意味説明、慣用表現などの空欄補充、傍線部の内容説明・抜き出し問題などが出題される。与えられた文章の空欄に、問題文の内容にあう解答を記述させるなど、読解力が問われる！

龍谷大学

ほとんどの学部で、現代文2題、古文1題という問題構成。試験時間は60分で、すべてマーク式の出題。

現代文では、2000～3500字程度の評論と文学作品（随筆文や小説）が1題ずつ出題されることが多い。設問は、知識問題あり、読解問題ありで、総合的な力が問われる！